

道なき道を歩き、 新しい世界を 切り拓きたい

日本アイ・ビー・エム株式会社
グローバル・ビジネス・サービス事業
銀行・FM第一インダストリーコンサルティング
アソシエイト・パートナー

高木 隆

Ryu Takaki



高木隆は、2015年から日本IBMでブロックチェーンを担当し、2016年からは金融機関のお客様のブロックチェーン実証実験におけるIBM責任者を兼務している。金融業界向けにブロックチェーン技術を活用するための啓蒙活動を行い、フォーラムでの講演などもこなしている。ブロックチェーンをビジネス活用するための最前線にいる高木は、この2年間での変化を次のように振り返る。

「去年の段階では、ブロックチェーンを知っている人と知らない人のギャップが大きく、『全く分からない』という声もあがっていました。それが一年経って状況は大きく変わっています。『技術は分かった。ではどう使えばよいのか?』という声があがるようになってきます。私の仕事も、ブロックチェーンとは何かを理解してもらおうことから、業務にどうブロックチェーンを使うのか、どう使ったらイノベーションを起こせるのかを考え提案していく活動へと変化しています」

現時点において、ブロックチェーンは新しい技術であり、どんな場面でどう活用すればよいのか解答がきちんと定まっているわけではない。「まだ道ができていないブロックチェーンと向き合っていくのは、自分の性分に合っているのかもしれない」と高木は笑う。

* * *

高木が日本IBMに入社したのは2年前。それ以前は、大手ITベンダー、外資系コンサルティングファームに勤務していた。

「大学では英文学を専攻していましたが、大学生活も最後の年になり時間の余裕があったときに、理工学部にあったUNIXマシンに触っていたのです。当時はインターネット黎明期で電子メール、ブラウザを初めて触り、こんな世界があるのかと毎日ワクワクの連続でした。専門書を読み、徹夜でプログラムを書いたこともありました。卒業後ITベンダーに就職することを選択したのはそれがきっかけです」

最初に入社した大手ITベンダーでは、アプリケーション・エンジニアをしていた。会社では人に恵まれ、仕事も楽しかった。それでも転職を決意したのは、安定することを善しとしなかったからだ。

「当時の上司から、何故転職するのかと聞かれて、『なんの不满もないことが不満でした』と答えたのを覚えています。居心地のよい環境よりも痛い目にあうくらいの環境にいたいと考えて、異なるフィールドであるコンサルティングファームに移ったのです」

日本IBMへの転職も、コンサルティングファームで上流のアプリケーション・コンサル業務に携わる中で、これまで経験したことがないさらに上流で、より影響力をもって顧客と関わるができる企業で働きたいと考え

ブロックチェーンの匠 たくみ

たことが動機だ。そして、日本IBMに入社して1年後に担当役員からブロックチェーン担当を命じられた。

「日本には多数の外資系ITメーカーが存在しますが、日本IBMは其中でも最大規模の会社です。しかも、外資系でありながら裁量権を持っており、さまざまなチャンスを与えてくれる。実際に働いてみて、懐の深い会社だと感じています。入社1年目にして大きな可能性を秘めたブロックチェーンの担当を命じられたことは、新しい道を歩くのが好きだということを見抜かれて、チャンスを与えられたような気がします」

* * *

プライベートでの高木の趣味は、全く知らない街へ行くことだ。ここでも、進んで新しい世界へ飛び込む性分が出てしまう。

「自分の日常の価値観からはずれた場所へ行きたくなるのです。国内だと北は北海道から、南は石垣島まで日帰りしたことがあります。海外へさっさと行ってさっさと帰ってくる弾丸ツアーもよくやりました。今は子どもが小さいのですが海外は無理ですが、子どもと私が二人で留守番をしている時に、急に思いついて高松へ行き、空港の近くの公園で一日遊んで帰ってきたこともあります」

その原点となった体験は、英国で過ごした小学生時代の体験だ。親に内緒で、住んでいたロンドンから200キロ離れたスコットランドまで一人旅をした。

「お小遣いを貯め、自分で調べてスコットランドまで行きました。日帰りで帰ってくる計画だったのですが、予定していた電車を1本乗り過ごしたことで、当日のうちに自宅まで帰ることができず、途中の駅で夜明けかしすることになりました。両親からは大目玉を食らうことになりましたが、忘れることができない楽しい思い出です」

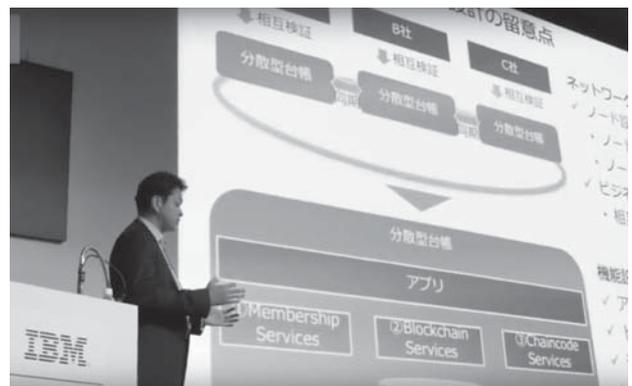
* * *

前職の時代から金融業界との関わりの深い高木だが、「今、金融業界が大きな変革期を迎えている」と感じている。

「金融機関のシステムは、当然、高い信頼性や堅牢性が確保されていることが重要です。その一方で、保守的な側面を持ち、新しい技術への取り組みには消極的というイメージを持っている方もいるようです。しかし、そんなことは全くありません。ブロックチェーンへの取り組み方に関して話をしても、印象は全く逆です。意欲的に新しいことにチャレンジされていますし、改革を進めていかなければならないという強い意志を感じます。許容量も大きく、私たちもとても提案のしがいがあります。」

グローバル化をはじめとするビジネス環境と、ブロックチェーンを含めたさまざまな技術の登場により、金融業界に大きな革新が起こり得る時代だと思えます。大学時代、初めてインターネットに触れた時の自分のワクワク感を、今度は自分が一役買ってみなさんに感じてもらいたい、そんな仕事をしていきたいと思っています」

新たなワクワクを届けるため、新しいブロックチェーンの道を開拓する高木の取り組みがこれからも続いていく。



(上)IBM Watson Summit 2016で、「IBM Open Block Chain活用のコツ」と題して講演

(左)急に思いついて、子どもと二人で高松へ日帰り旅行